

2018年の北陸地方の天候経過

－北陸地方の天候の特徴と気象トピックス－

(冬は低温・大雪、夏は記録的な高温)

- ◆ 冬(2017年12月～2018年2月)は、日本付近には強い寒気の流れ込むことが多く低温となった。冬型の気圧配置がしばしば強まったため、山地や山沿いに加えて平地でも大雪となり、交通障害が発生した。
- ◆ 春(3～5月)は、日本付近への寒気の南下が弱く、暖かい空気に覆われやすかったため、かなりの高温となった。低気圧の通過時に南から湿った空気が流れ込みやすかったため、かなりの多雨となった。
- ◆ 夏(6～8月)は、太平洋高気圧とチベット高気圧の張り出しがともに強まり、晴れて厳しい暑さの日が続き、かなりの高温となった。台風第20号が西日本を縦断して日本海へ進み、日本海側はフェーン現象により気温が顕著に上昇した。北陸地方では統計史上初めて40℃以上を記録した。
- ◆ 秋(9～11月)は、台風第24号と第25号が相次いで日本に接近した。台風による暖かい空気の流入とフェーン現象の影響により、10月6日は新潟県(三条)で日最高気温が10月として歴代全国1位の顕著な高温となった。
- ◆ 12月は、冬型の気圧配置となり寒気の影響を受けた日が多く、雨や雪の日が多かった。
- ◆ 北陸地方平均の年平均気温の年差は+0.8℃で年よりかなり高かった。
- ◆ 台風の発生数は年より多い29個だった(平年の年間発生数は25.6個)。日本への上陸数は年(2.7個)を上回る5個だった。北陸地方への接近数は6個だった(平年の北陸地方への接近数は2.5個)。(2018年12月21日現在、速報値)

※北陸地方平均とは、北陸地方にある気象官署及び特別地域気象観測所(9地点)ごとの年差(比)を平均したものです。

☆冬(2017年12月～2018年2月) ー3年ぶりの寒冬。低温・多雪ー

日本付近に強い寒気の流れ込むことが多かったため、低温となった。冬型の気圧配置がしばしば強まり、大雪となった時期があった。1月中旬は強い寒気の流れ込んで、北陸地方を中心に大雪に見舞われ、新潟では1月12日の積雪が80cmとなり、2010年2月以来8年ぶりに積雪が80cmに達した。2月上旬は発達した雪雲が日本海から盛んに流れ込み、2月3日から8日にかけての期間降雪量が石川県(加賀菅谷)で177cm、福井県(福井)で144cmとなった。特に福井県(福井)では日最深積雪が2月7日に147cmに達して、1981年以来37年ぶりに140cmを超えるなど記録的な大雪となった。2月14日は日本海を東進した低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込み、春一番が吹いた。

気温は、12月、1月、2月ともに低かった。3か月平均でも低かった。

降水量は、12月はかなり多く、1月は多かった。3か月合計ではかなり多かった。

日照時間は、12月、1月ともに少なく、2月は多かった。3か月合計では年並だった。

降雪量は、1月、2月はともに多かった。3か月合計では多かった。

3か月平均(合計)と月別の平均気温・降水量・日照時間・降雪量の年差(比)と階級				
北陸地方平均	12～2月	12月	1月	2月
平均気温年差	-1.1℃	-1.4℃	-0.8℃	-1.1℃
階級	低い	低い	低い	低い
降水量年比	124%	136%	122%	109%
階級	かなり多い	かなり多い	多い	年並
日照時間年比	99%	81%	87%	122%
階級	年並	少ない	少ない	多い
降雪量年比	127%	96%	131%	140%
階級	多い	年並	多い	多い

☆春(3月～5月) ーかなりの高温・かなりの多雨・多照ー

3月は日本付近は低気圧と高気圧が交互に通過したが、日本の東で高気圧の勢力が強く、低気圧の通過時には南から湿った空気が流れ込みやすかった。このため、かなりの高温・かなりの多照となった。4月は日本付近は寒気が南下しにくく、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、かなりの高温・かなりの多雨となった。5月は高気圧と低気圧が交互に通過して、天気は数日の周期で変化した。

気温は、3月と4月はかなり高く、5月は高かった。3か月平均はかなり高かった。

降水量は、3月と5月多く、4月はかなり多かった。3か月合計はかなり多かった。

日照時間は、3月はかなり多く、5月は少なかった。3か月合計は多かった。

3か月平均(合計)と月別の平均気温・降水量・日照時間の平年差(比)と階級				
北陸地方平均	3～5月	3月	4月	5月
平均気温平年差	+1.5℃	+1.9℃	+1.6℃	+0.9℃
階級	かなり高い	かなり高い	かなり高い	高い
降水量平年比	135%	120%	148%	143%
階級	かなり多い	多い	かなり多い	多い
日照時間平年比	107%	141%	101%	90%
階級	多い	かなり多い	平年並	少ない

☆夏(6月～8月) ーかなりの高温・かなりの多照ー

6月は梅雨前線が西日本の南岸から東日本の南海上に位置することが多かったため、少雨・多照となった。7月は中旬のはじめまでは梅雨前線などの影響により、雨の日が多く大雨となった日があった。その後は、平年よりかなり早く梅雨明けして盛夏となり、太平洋高気圧とチベット高気圧の張り出しがともに強く、晴れて厳しい暑さの日が続いた。7月は1946年の統計開始以降で、月平均気温が最も高く、月間日照時間が最も多かった。8月は上・中旬の天気は概ね数日の周期で変化した。下旬は台風や前線の影響で雨の日が多く、大雨となった日があった。このため、8月はかなりの多雨となった。8月23日から24日にかけて台風第20号が西日本を縦断して日本海へ進み、日本海側ではフェーン現象により気温が顕著に上昇した。新潟県(中条)では日最高気温が40.8℃に達するなど、北陸地方で統計史上初めて40℃以上を記録した。北陸地方の梅雨入りは6月9日ごろで平年並(平年は6月12日ごろ)、梅雨明けは7月9日ごろで平年よりかなり早かった(平年は7月24日ごろ)。

気温は、6月と8月は高く、7月はかなり高かった。3か月平均はかなり高かった。

降水量は、6月は少なく、8月はかなり多かった。3か月合計は平年並となった。

日照時間は、6月は多く、7月はかなり多かった。3か月合計はかなり多かった。

3か月平均(合計)と月別の平均気温・降水量・日照時間の平年差(比)と階級				
北陸地方平均	6～8月	6月	7月	8月
平均気温平年差	+1.5℃	+0.9℃	+3.0℃	+0.8℃
階級	かなり高い	高い	かなり高い	高い
降水量平年比	100%	62%	76%	175%
階級	平年並	少ない	平年並	かなり多い
日照時間平年比	129%	118%	179%	100%
階級	かなり多い	多い	かなり多い	平年並

☆秋(9月～11月) ー多雨・寡照ー

9月は秋雨前線が停滞しやすく、曇りや雨の日が多かった。また、日本の南で高気圧が強く、湿った空気が流れ込みやすかったほか、上旬には台風第21号、下旬には第24号の影響を受けて、大雨となった日があった。9月はかなりの多雨・かなりの寡照となった。9月終わりから10月上旬にかけて、台風第24号と第25号が相次いで日本に接近した。台風による暖かい空気の流入とフェーン現象の影響で、10月6日は新潟県(三条)で日最高気温が36.0℃で10月として歴代全国1位の高温となった。10月中旬以降の天気は概ね数日の周期で変化した。11月は寒気や気圧の谷の影響を受けにくかったため、かなりの少雨、か

なりの多照となった。立山(富山県)は10月21日、白山(石川県)は11月1日に初冠雪を観測した。

気温は、10月と11月は高かった。3か月平均は平年並となった。

降水量は、9月はかなり多く、11月はかなり少なかった。3か月合計は多かった。

日照時間は、9月はかなり少なく、11月はかなり多かった。3か月合計は少なかった。

3か月平均(合計)と月別の平均気温・降水量・日照時間の平年差(比)と階級				
北陸地方平均	9~11月	9月	10月	11月
平均気温平年差 階級	+0.5℃ 平年並	-0.3℃ 平年並	+0.7℃ 高い	+1.3℃ 高い
降水量平年比 階級	117% 多い	205% かなり多い	98% 平年並	51% かなり少ない
日照時間平年比 階級	96% 少ない	74% かなり少ない	101% 平年並	121% かなり多い

★12月

冬型の気圧配置となり寒気の影響を受けた日が多く、雨や雪の日が多かった。12月上旬は強い寒気が流れ込み、新潟、富山、金沢は12月8日、福井は12月9日に初雪を観測した。12月下旬の後半は冬型の気圧配置が強まり、新潟県の山沿いで大雪となった。

★年

2018年の北陸地方の平均気温の平年差は+0.8℃で平年よりかなり高かった。月別で「高い」階級となった月は5月、6月、8月、10月、11月で、「かなり高い」階級となった月は3月、4月、7月だった。「低い」階級となった月は1月、2月だった。

年降水量の平年比は114%で平年より多かった。月別で「多い」階級となった月は1月、3月、5月で、「かなり多い」階級となった月は4月、8月、9月だった。「少ない」階級となった月は6月で、「かなり少ない」階級となった月は11月だった。

年間日照時間の平年比は110%で平年よりかなり多かった。月別で「多い」階級となった月は2月、6月で、「かなり多い」階級となった月は3月、7月、11月だった。「少ない」階級となった月は1月、5月、12月で、「かなり少ない」階級となった月は9月だった。

なお、気象官署と特別地域気象観測所の値は表1のとおりで、北陸地方の年平均気温の経年変化は長期的には上昇傾向である(図1)。気象官署と特別地域気象観測所の年別の順位更新は表2、季節別の順位更新は表3、月別の順位更新は表4のとおりである。

表1 2018年の北陸地方の年統計値

	年平均気温		年降水量		年間日照時間	
	実況(°C)	平年差(°C)	実況(mm)	平年比(%)	実況(時間)	平年比(%)
新潟	14.3	+0.7	1795.5	99	1698.8	104
相川	14.4	+0.5	1692.0	112	1709.7	105
高田	14.4	+0.8	2634.5	96	1772.1	111
富山	15.0	+0.9	2751.0	120	1799.5	112
伏木	14.7	+0.8	2559.5	115	1820.6	113
金沢	15.5	+0.9	2765.5	115	1880.7	112
輪島	14.2	+0.7	2736.5	130	1678.3	107
福井	15.3	+0.8	2632.0	118	1844.4	114
敦賀	16.2	+0.9	2560.0	120	1778.4	114
北陸平均		+0.8		114		110

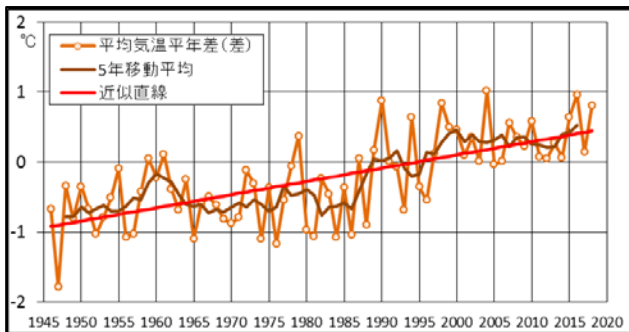


図1 北陸地方の年平均気温経年変化

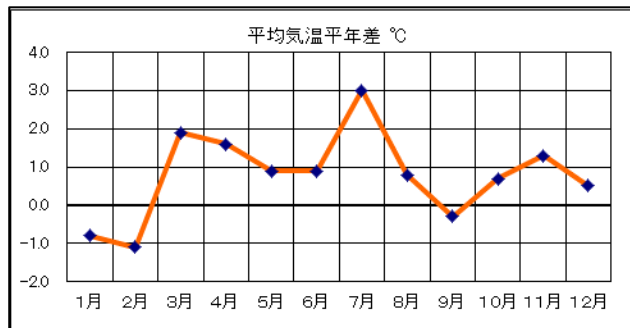


図2 北陸地方の月別平均気温平年差(°C)

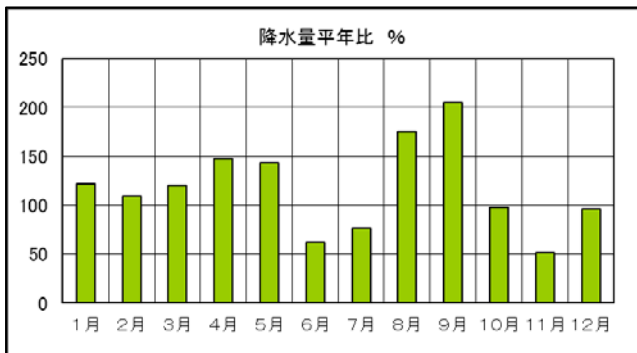


図3 北陸地方の月別降水量平年比(%)

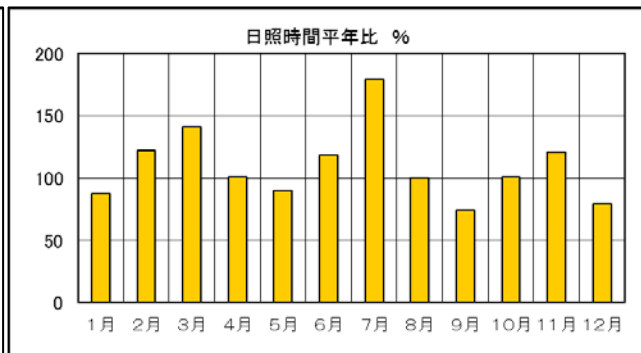


図4 北陸地方の月別日照時間平年比(%)

注1：平年値としては、1981～2010年の30年平均値を使用している。

注2：本文中の平年差・比は、北陸地方の気象官署・特別地域気象観測所平均(9地点)の値である。なお、北陸平均の統計開始は1946年。

注3：表1で、値の横に)がある場合、統計を行う対象資料が許容範囲で欠けていますが、正常値(資料が欠けていない)と同等に扱います(準正常値)。

表2 2018年の年別で順位を更新した記録(3位以内)

◎年の平均気温の高い方からの順位更新

年	順位	官署	実況値 ℃	平年差 ℃	これまでの最高(西暦年) ℃	統計開始 年	平年値 ℃
2018	3	富山	15.0	+0.9	15.2(2016/2004)	1939	14.1

表3 2018年の季節(3か月)別で順位を更新した記録(3位以内)

◎3か月間の降水量の多い方からの順位更新

月	順位	官署	実況値 mm	平年比 %	これまでの最大(西暦年) mm	統計開始 年	平年値 mm
3~5	2	福井	663.5	154	669.9(1904)	1897	430.3
	3	輪島	586.0	157	623.0(1972)	1930	374.1
		伏木	543.5	144	561.0(1954)	1884	377.8

◎3か月間の平均気温の高い方からの順位更新

月	順位	官署	実況値 ℃	平年差 ℃	これまでの最高(西暦年) ℃	統計開始 年	平年値 ℃
3~5	1	富山	13.6=	+1.8	13.6(2016)	1939	11.8
		敦賀	14.6=	+1.7	14.6(1998)	1898	12.9
	2	伏木	13.0	+1.6	13.1(1998)	1884	11.4
		輪島	12.2=	+1.4	12.3(1998)	1930	10.8
	3	金沢	13.7	+1.5	13.9(2016)	1882	12.2
		福井	13.9	+1.5	14.2(1998)	1897	12.4
6~8	1	高田	12.7	+1.6	12.9(1998)	1922	11.1
		金沢	26.3	+1.8	26.1(2013)	1882	24.5
		福井	26.6	+1.8	26.3(2010)	1897	24.8
		敦賀	26.6	+1.6	26.5(2010)	1898	25.0
		富山	26.0=	+1.9	26.0(2010)	1939	24.1
	伏木	25.4=	+1.5	25.4(2013)	1884	23.9	
	2	輪島	24.5	+1.4	24.7(2010)	1929	23.1
3	高田	25.2=	+1.4	25.4(2010)	1922	23.8	

注)=タイ記録を示す

◎3か月間の日照時間の多い方からの順位更新

月	順位	官署	実況値 h	平年比 %	これまでの最大(西暦年) h	統計開始 年	平年値 h
6~8	3	富山	670.7	135	777.4(1939)	1939	498.6

表4 2018年の月別で順位を更新した記録(3位以内)

◎月降水量の多い方からの順位更新

月	順位	官署	実況値 mm	平年比 %	これまでの最大(西暦年) mm	統計開始 年	平年値 mm
4	3	輪島	228.5	202	247.0(1969)	1930	113.2
8	2	輪島	448.0	288	512.0(1968)	1929	155.8
9	1	富山	563.5	256	481.5(1989)	1939	220.2
	2	福井	509.5	252	519.5(1989)	1897	202.3
	3	敦賀	465.0	247	571.2(1965)	1898	188.2

◎月降水量の少ない方からの順位更新

月	順位	官署	実況値 mm	平年比 %	これまでの最小(西暦年) mm	統計開始 年	平年値 mm
11	1	輪島	78.5	34	97.7(1941)	1929	227.9
		金沢	112.0	42	118.7(1954)	1882	264.9
	2	福井	78.5	38	58.9(1959)	1897	205.3

◎月平均気温の高い方からの順位更新

月	順位	官署	実況値 ℃	平年差 ℃	これまでの最高(西暦年) ℃	統計開始 年	平年値 ℃
3	1	富山	8.7	+2.4	8.6(2002)	1939	6.3
		伏木	8.3	+2.1	8.1(2002)	1884	6.2
		敦賀	10.1	+2.3	9.8(2002)	1898	7.8
		輪島	7.5=	+1.8	7.5(2002)	1930	5.7
		高田	7.6=	+2.2	7.6(2002)	1922	5.4
	2	金沢	8.7	+1.8	9.0(2002)	1882	6.9
		新潟	7.5=	+1.7	7.7(2002)	1886	5.8
		福井	8.6=	+1.8	8.7(2002)	1897	6.8
	3	相川	7.5=	+1.3	8.0(2002)	1912	6.2
	7	1	新潟	27.4	+3.1	27.1(1978)	1886
高田			27.5	+2.9	27.0(1978)	1922	24.6
相川			26.3	+2.7	26.0(1978/1933)	1911	23.6
富山			28.1	+3.2	27.1(1978)	1939	24.9
伏木			27.5	+2.9	27.3(1978)	1884	24.6
金沢			28.3	+3.0	27.5(1978)	1882	25.3
輪島			26.7	+2.8	26.0(2017)	1929	23.9
福井			28.7	+3.1	27.8(1978)	1897	25.6
敦賀			28.8	+3.0	28.2(1978)	1898	25.8

注)=タイ記録を示す

◎月間日照時間の多い方からの順位更新

月	順位	官署	実況値 h	平年比 %	これまでの最大(西暦年) h	統計開始 年	平年値 h
3	1	富山	179.7	137	175.2(1963)	1939	131.3
		金沢	194.2	137	186.3(1997)	1891	141.3
	2	高田	187.0	155	189.8(1931)	1922	120.7
		伏木	183.9	139	186.6(1931)	1893	132.4
		福井	191.6	147	203.1(1931)	1898	129.9
		敦賀	190.4	153	197.1(1931)	1914	124.4
	3	新潟	175.1	131	184.6(1963)	1892	133.2
		輪島	178.3	140	203.8(1931)	1930	127.4
7	1	高田	277.6	180	273.5(1924)	1922	153.8
		富山	288.7	196	286.1(1939)	1939	147.1
		伏木	287.8	188	272.0(1939)	1893	153.1
		金沢	289.4	182	280.8(1939)	1891	158.9
	3	輪島	285.8	183	298.0(1939)	1929	156.1
11	2	富山	134.6	131	137.4(1954)	1939	102.8

◎降雪の深さ月合計の多い方からの順位更新

月	順位	官署	実況値 c m	平年比 %	これまでの最大(西暦年) c m	統計開始 年	平年値 c m
2	3	福井	184	202	268(1968)	1953	91